

## 中国におけるSARS報道 — 新型インフルエンザ報道へのヒントをさぐる —

勝 田 吉 彰

### How SARS epidemic was reported in P. R. China — Bring out a suggestion toward report of pandemic influenza —

Yoshiaki KATSUDA

#### Summary

Reports of SARS epidemic in China were analyzed. In cooperation with Sino-Japanese friendship hospital in Beijing, We collected articles of SARS outbreak and classified them into 5 categories as ① praise for medical professions, ② objective reports of the hospital inside, ③ about patients, ④ medical facts ⑤ support or donation from government, political party, embassy or citizens.

As many as 77% of articles were about the hospital inside, and 33% were praise for medical professions.

Reports focusing on the hospital inside and praise for medical professions are effective to maintain their motivations in an emergency, and such reports are desirable during pandemic influenza.

Key words : SARS, Pandemic influenza, report, praise toward medical professions, motivation

SARS 新型インフルエンザ 報道 医療スタッフへの賞賛 モチベーション

#### I. はじめに

筆者は、2003年のSARS流行に見舞われた北京にて、在中国日本国大使館に在勤し、その流行が及ぼす心理的影響・社会不安を観察する機会に恵まれ報告してきた<sup>1)2)</sup>。

流行の渦中に身をおく中で、現地における報道が社会不安の緩和に有用なものであった実感を持っている。現在、新型インフルエンザのパンデミックが警告され、一般社会の間に漠然とした不安感が拡大しつつある中、当時の報道を調査し新型インフルエンザ報道へ

の提言につなげることは有用と考え、分析を試みた。

#### II. 方 法

2008年3月25日~29日に北京現地調査をおこなった。中日友好病院(日中友好病院)外事処の協力を得て、同院資料庫に保管されている2003年のSARS関連報道記事をすべて提供いただき分析をおこなった。

対象は人民日報・北京日報・北京晨报・北京青年報・北京娛樂信報・光明日報・健康時報・中国衛生・北京労働保障・中国中医薬

報・首都医薬の各紙のSARS関連記事で、流行期間中（2003年5月～6月）のものである。タイトル・要約・写真をまとめ、その内容を①医療スタッフへの賞賛・激励・サポート・慰労 ②病院内の様子・スタッフの働きの客観的報道 ③患者の様子・サポート ④医学的事実関係 ⑤政府・共産党・大使館・一般市民による激励・寄付・サポート に分類した。

### Ⅲ. 結 果

SARS流行期間中の北京における報道は一面トップから3段、ベタ（一段）まで様々な大きさの報道が多彩に繰り広げられた。各記事のタイトル・概要・新聞名・日付・写真内容を表1～5に示した。

また、報道内容の分類を図1に示したが、その中で医療スタッフへの賞賛・激励が33%と多数を占めた。また、評価を伴わず客観的に病院内の様子や医療スタッフの動きを伝えるものは35%、患者の焦点を当てたものが9%となり、これらを合計すると77%となった。また、政府や共産党委員会から発出されるメッセージやアクション、市民のアクションも12%を占めた。

### Ⅳ. 考 察

SARS流行期間中の報道を分類してまず目立つのが医療スタッフへの賞賛・激励で、SARS感染の危険をおして任務にあたる医療人を英雄的に扱うパターンが目立った。SARS感染者に占める医療従事者の割合は高く、SA

表1 医療スタッフへの賞賛・激励・サポート・慰労

見出し	概 要	新聞名	日付	写 真
白衣戦士に尊敬を！	全国SARS患者3106名中1/5の653名が医療従事者。銃弾こそ無いものの真の戦士である。	健康時報	2003. 4. 29	涙を浮かべ抱き合うスタッフ
一致団結しSARSと戦う 白衣の天使 無私奉獻	現場医師・看護師の働きぶり紹介	光明日報	2003. 5. 2	なし
点滴に走り汗にまみれる	25歳誕生日をむかえる劉納看護師の一日。汗だくになり処置・看護に走り回る詳細	北京青年報	2003. 5. 5	器具を運ぶ看護師
出征前のお祝い	看護師の日を祝う看護師たち	北京娯楽信報	2003. 5. 8	ケーキを前に集うナース
職業精神でいささかも恐れない 専門家の分析で医療人員の感染率多	北京のSARS感染者の17.66%を医療人員が占め高率。北京市政府・共産党委は非常に重視し多角的対策。防護設備増強、予防薬服用、感染防御訓練、休息条件整備、免疫力増強。	北京青年報	2003. 5. 8	看護師の日を祝う呼吸器科看護師たち
妻子に祝福を	医師と看護師の夫婦が同じ職場でSARSに立ち向かう	北京晨報	2003. 5. 12	手をつなぐ医師と看護師のカップル
休む間もない記念日	国際看護記念日。院内看護師の様子	人民日報	2003. 5. 13	患者とともに折鶴、送迎バス内風景
老看護師 危険な第一線へ	病院全スタッフは帰宅を許されず近くのホテルに宿泊。高医師は子供の具合悪いが母親にあずけ任務へ。黄医師は結婚延期しSARSと戦う。陳看護師は夫が公安戦士で家には子供一人残され、毎日電話で声を聞く状態だが動揺みられず。劉看護師は今年定年予定だったが定年延長してSARS戦線第一線に志願。	北京日報	2003. 5. 14	なし
攻撃SARS第一現場 祝福	SARS病棟で看護師が患者に「福」の飾りを置く看護師の日に各界から慰問の贈物が届く	北京青年報	2003. 5. 22	ベッドサイドに患者とともに飾りつけする看護師
共産党支部 慰問メッセージ贈る	共産党支部からICU重症患者・看護スタッフへメッセージとともに花束贈られる	健康報	2003. 5. 27	患者に花束

中国における SARS 報道－新型インフルエンザ報道へのヒントをさぐる－

白衣天使に鮮花が贈られる	困難な条件下で勤務するICUの看護師に花束が贈られた	健康報	2003. 5. 27	看護師に花束
天使の練習展	レクリエーション活動おこないSARSと戦う団結確認	北京晨報	2003. 6. 3	運動会風の競技風景
低死亡率の背景	中日友好病院におけるSARS入院者223名に対し死亡5名。背景にクオリティコントロール。詳細（医療の質監督員、専門医回診、WHO専門家アドバイス、西洋医学・漢方医学併用治療	健康報	2003. 6. 10	なし
専門家チーム全力出撃	中日友好病院に専門家チーム編成。呼吸器科・腎臓科・内分泌科・循環器科・免疫科・漢方医学科・放射線科からなり高度医療を提供	北京晨報	2003. 6. 17	なし
骨折にもかかわらず患者救う	呼吸器科主任医師が尾骨骨折にもかかわらずSARS医療チームの陣頭指揮をとった	北京晨報	2003. 6. 18	なし
白衣天使の父母の心を敬うSARS攻撃第一現場	父ICU主任医師、母整形外科医師。中学入学前の息子の写真を手に語る	北京青年報	2003. 6. 27	息子の写真を指差す手
がんばって、私の愛する人	(電話インタビュー) 私達は病院スタッフ。恋人はICU主任。任務中にSARS感染、重態・・・(涙声で聞き取れず)・・・	北京青年報	2003. 6. 27	なし
私は看護師私は誇り	救急部看護師長取材。現在SARS病棟勤務。	北京労働保障	2003年6期	劉看護師長

表2 病院内の様子・スタッフの客観的報道

見出し	概要	新聞名	日付	写真
「国家隊」の戦前準備	SARS指定病院のWHO視察 SARS病棟設備の取材・紹介	健康報	2003. 4. 21	なし
初めて三級A等病院がSARS指定病院に徴用される	宣武病院、中日友好病院が緊急に徴用 周辺のホテルを病院スタッフ宿泊用に借り上げ	北京晨報	2003. 4. 28	なし
医療人員の心理的サポート	SARS医療人員の心理健康プログラム始動。 スタッフに孤独・緊張・恐怖感あり、反応・不安焦燥・パニック見られる。カウンセラー派遣、カウンセリングとともに音楽療法も。	北京娯楽情報	2003. 5. 5	なし
医療人員心理健康プログラム	カウンセリング、音楽療法	北京晨報	2003. 5. 5	なし
「国家隊」現場で準備	SARS受入れ病院として稼働第一日目。 先立つ1週間に渉る準備作業紹介、院長コメント、担当人員体制紹介	健康報	2003. 5. 8	患者搬入
中日友好病院 最初のSARS患者入院	SARS指定病院となり、他院から最初のSARS患者が転入	北京日報	2003. 5. 8	ストレッチャーで運ばれる患者
昨日より中日友好病院SARS患者受入れ	SARS指定病院第一日の様子ルポ	北京青年報	2003. 5. 8	救急車前の防護服姿のスタッフ
愛心愛情	看護師がメッセージ伝える任務も	人民日報	2003. 5. 10	家族の手紙を患者に伝える看護師
攻撃SARS第一現場	写真のみ	北京青年報	2003. 5. 13	隔離・缶詰になっているホテルの一室で起床・背伸びするスタッフ
中日友好病院開始SARS診療	中日友好病院SARS指定病院化を前に患者搬出完了	北京青年報	2003. 5. 14	なし
隊に帰る	SARS医療従事中に感染した医療従事者4名が退院。SARS医療の第一線に復帰へ	健康報	2003. 5. 20	花束贈呈
規則に従い、落ち着いて勤務	中日友好病院SARS指定3日後の病棟。 スタッフは落ち着いて勤務。感染制御のため厳重な規則があり、時にはガラス越しの打合せとなるなど困難ともなうが遵守。	人民日報	2003. 5. 20	ガラス越しに筆談で議論するスタッフ
非常時期、非常手術	呼吸困難例に対し緊急気管切開術が行われる様子ルポ	健康報	2003. 5. 21	手術室内

攻撃SARS第一現場	4名の白衣戦士が病院を出て宿舎に戻るところ	北京青年報	2003.5.21	勤務を終わりホテルへ向かうスタッフ
医療人員第一次隊休息へ	第一次隊が休息に入り第二次隊へ交代	北京晨報	2003.5.28	なし
面白いこと	院内で行われた催しなど（スタッフへプレゼント贈呈、患者慰問など）	健康報	2003.6.8	プレゼント贈呈式、ベッドサイドで花束贈呈
まず建設、そして改造	SARS収束後の指定病院。一旦閉鎖し完全消毒後、改装して一般病棟へ転換の計画	北京晨報	2003.6.8	なし
先進“試点”でSARS攻撃促進、SARS攻撃をも先進“試点”試される	院内SARS医療のドキュメント	中国衛生	2003年6期	院内風景

表3 患者の様子・サポート

見出し	概要	新聞名	日付	写真
楽観が良い処方	2名の若い女性患者が、互いに励ましあいながら入院生活。看護師が切り絵を進呈しベッドサイドに飾り楽しむ。楽観的心理が良い処方。	人民日報	2003.5.15	ベッドサイドに切り絵を貼る患者と看護師
緊急X線撮影	病院ICUルボ重篤患者の様子	健康報	2003.5.18	患者
退院第一例	回復し退院の第一号	人民日報	2003.5.20	退院患者
なし	最年少（11歳）SARS患者の退院	健康報	2003.5.28	病院正門前、マスクの退院患者
面白いこと	院内で行われた催しなど（スタッフへプレゼント贈呈、患者慰問など）	健康報	2003.6.8	プレゼント贈呈式、ベッドサイドで花束贈呈

表4 医学的事実関係

見出し	概要	新聞名	日付	写真
中日友好病院 経験アドバイス	医療スタッフの感染を受け、マスク・消毒・換気等について注意事項伝える	健康報	2003.5.8	なし
温故知新 中西結合	西洋医学と中医学を併用してSARSを予防	中国中薬報	2003.5.22	なし
CTがSARS早期診断に奏功	病院放射線科取材、CT説明	健康報	2003.5.29	なし
SARS前駆期ステロイド使用せず	ステロイドは肺炎期（免疫反応過反応期）に使用、前駆期（発熱のみ）には使用せず	健康報	2003.5.30	なし
SARS予防検査試験点	人的・設備の高品質	首都医薬	2003年11期	なし

表5 政府・共産党・市民・大使館による激励・サポート・寄付

見出し	概要	新聞名	日付	写真
白衣戦士は新たな功績をあげ、経済戦線はさらに発展加速せねばならない	北京市共産党書記劉氏が病院来訪、訓辞	北京青年報	2003.5.8	なし
寄付金	南京老山製薬と北京金像製薬が30万元相当の保健薬を寄贈	北京晨報	2003.5.12	贈呈式
市要人、SARS一線で戦う医師家族を慰問	北京市要人・共産党要人が、SARS医療で病院に缶詰になっている医師留守宅訪問し家族を慰問	北京日報	2003.5.16	なし
今年は戦場で前線兵士の鼓舞 今日は病院で前線天使の鼓舞	芸人、戦場同様に病院でも慰問演芸	北京晨報	2003.5.28	スター2名と病院スタッフ
東盛科学技術SARS医薬品寄贈	SARS予防漢方薬210万元相当を寄贈	人民日報	2003.5.28	なし
日本大使館が日中友好のため援助	日本大使館・商会・日本人会が27万元をSARS治療と医療スタッフ休養のため寄贈	北京晨報	2003.6.7	なし

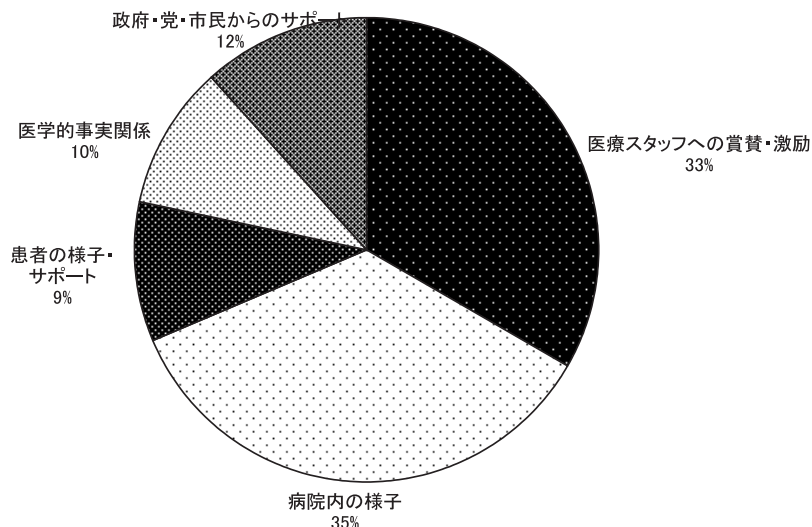


図1 SARS関連記事 内容による分類

RS医療の任務には恐怖感を伴うことは想像に難くないが、その労苦をくみとり、ポジティブに評価することによりモチベーション向上につなげた役割は大きいと思われる。

また、賞賛を与えるものではないものの、医療スタッフの働きや病院内の様子を客観的に伝える報道や、患者に焦点を当てた報道を加えると75%となり、医療現場に立脚した報道が多くを占め、中でも、北京青年報が「攻撃SARS 第一現場」と題する、一貫して医療現場内ルポをテーマとする連載を企画していたのは特筆に値する。

日本においては、従来、医療事故報道に象徴される如く、「思わしくないこと」に焦点を当て非難基調の報道が目立つ一方で、危険をおして任務に励む姿や強い使命感に基づく行動に対する賞賛はもとより関心も少なく、最近の医療崩壊の流れの中でようやく医療スタッフの労苦に多少の関心が向けられてきた流れがある。

新型インフルエンザのパンデミックにあたり、極めて高いリスクに直面せざるを得ない現場において、そのモチベーションを多少な

りとも維持するためには社会一般からのポジティブな評価が必須であり、医療従事者を「賞賛」「鼓舞」「激励」「サポート」「慰労」する報道による世論の形成が強く求められる。

中国において、報道は政府の意向を反映したものが主体となり、各報道機関の自由が保証される日本とは異なる面があるが、それだけに一層、報道各社の自覚が期待されるものである。

## V. 結 語

2003年のSARS流行中における中国の報道を検証した。医療現場に立脚した報道が多く、中でも現場の医療関係者に賞賛・激励を送るものが目立った。新型インフルエンザ流行においてリスクの高い任務にあたる医療関係者のモチベーション維持のためにも、日本においても現場の医療関係者に賞賛・激励をおくる報道が望まれる。

## VI. 謝 辞

本調査の実施にあたり、中日友好病院外事 尹処長・蔡副処長に大変お世話になりま

した。また、本調査はトヨタ財団より研究助成をいただいております。ありがとうございました。

## 参考文献

- 1) 勝田 吉彰：大規模感染症流行における心理的反応と対策—SARSの経験から新型インフルエンザへ—。臨床精神医学, 35 (12), 1719-1722, 2006
- 2) 勝田 吉彰：ドクトル外交官奮闘記(29)。こころの臨床アラカルト, 22:395-396, 2003